

令和元年度第4回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和元年8月8日（木）13：30～15：40

場 所：伏見いきいき市民活動センター 会議室305

出席者：

（委員，敬称略）吉田 忠彦（近畿大学教授）＜委員長＞

中井 歩（京都産業大学教授）＜副委員長＞

伊豆田千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）

重野亜久里（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと代表）

※ 土江田委員，鈴木委員は欠席

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域自治推進室長 猪田 和宏

市民活動支援課長 川瀬 清一郎

課長補佐 浅堀 知哉

担当係長 坂口 景章

担当 岩雲 千夏

傍聴者：5名

取材者：なし

議 題：・平成30年度いきいき市民活動センター評価報告案の検討について

・平成30年度市民活動総合センター評価報告案の検討について

・京都市いきいき市民活動センターの在り方検討に係る調査について

・その他（報告事項）

開催概要

1 開 会

2 議 事

（1）平成30年度京都市いきいき市民活動センター評価報告案の検討について

いきいき市民活動センターの評価報告案（2センター分及びまとめ）について事務局から提案し，各評価案の内容に対し，評価委員から意見を頂いた。

＜醍醐いきいき市民活動センター＞

（委員）

醍醐いきいセンは，立地が良くないながらも多彩な事業を実施され，成功しているセンターの一つである。利用件数についても平成30年度は前年度比で121%と，なお件数を伸ばしているところも評価できる。

（委員）

その努力を踏まえると，評価案の助言部分に関しても，「もう少し」や「引き続き」など，これまでを評価したうえで更に取組を進めてもらいたいという表現が必要ではないか。また，活性化事業に関しても，センターが中心となるだけでなく，利用者等が主体となるものも実施されてい

るため、それが伝わる表現にするべきである。

(委員)

では、「引き続き」利用者等が主体となったイベントを支援してもらいたいという趣旨の表現に修正をお願いしたい。

(委員)

情報発信として、更に助言するとすれば、チラシの裏面をもっと活用されてはどうか。

(委員)

作成したチラシを掲示板などに貼付するのであれば裏面は不要だが、手に取って見てもらうものについては活用する方が情報発信として効果的である。

(委員)

では、施設管理等の助言に関しても、チラシの裏面活用等の工夫に取り組まれない旨追加する。先ほどの事業に関する助言に戻るが、新たに市民活動に興味を持つ方の開拓についても、これまで取り組んでこられたということを踏まえて、「継続されることを期待する」という評価とする。

<伏見いきいき市民活動センター>

(委員)

利用件数について、前年度比は87%であるものの、転用初年度比は37.7%にもなっている。学生利用もあって思い切った人材育成事業も展開されており、評価案としても前向きな評価となっている。

(委員)

前年度と比べて利用件数が減少したことに理由はあるのか。

(事務局)

評価案中「貸館事業」の欄にも記載しているが、年度中に一時期空調工事に伴い貸館利用が停止したためである。

(委員)

市内南部には、多くのいきセンがあることから、センター同士の横のつながりを、より強めてもらいたい。また、情報発信に際し活用する「情報誌」とは、地域情報誌のことか。

(事務局)

伏見いきセンでは、独自の情報誌を既に発刊しているが、そういったツールを活用して、昨年度減少した利用者数を増加させてもらいたいという意図である。

(委員)

事業に関する助言としては、「いきセン」と「利用者」をつなげる役割だけでなく、「利用者同士」をつなげて事業を支援する役割も担ってもらいたい。

(委員)

活性化事業として、地域の学生団体とも連携して貧困問題等社会的な課題に取り組まれていることを、その側面からもう少し評価を加えたい。

(委員)

では、先の2点について、付帯意見又は助言に盛り込んだ修正をお願いする。

<まとめ>

(委員)

施設の利用状況については、今後の在り方検討を見据えた記載となっている。

(委員)

管理運営全般に関する評価の記載で「区役所・支所との連携」とあるが、管理運営における連携とは具体的にどのようなものか示す必要があるのではないかと。連携とだけ聞くと広報関係ではないかと思うが。

(事務局)

事業運営に関し、イベント企画時等に区役所等と連携したいきセンの事例を踏まえて、そういった取組を進めてもらいたいとの趣旨である。

(委員)

いきセンの事業運営全般に対してでなく、貸館に特化して事業の企画等について苦勞しているセンターにおいて、新規事業のきっかけの一つとして、区役所のイベントへの参入やまちづくりアドバイザーへの相談などもあるという表現の方が良いのではないかと。

(委員)

まちづくりアドバイザーはどれくらいいるのか。

(事務局)

各区役所・支所に配置されており14名いる。所属は地域自治推進室となる。

(委員)

区役所等との連携に関しては、必ずしも行うべき取組ということではなく、事業の実施に課題のあるセンターにおける実施支援の方法の一つとして挙げられるという意図で記載をお願いしたい。

(委員)

そういった意味では、区役所等との連携が、必ずしも「地域ニーズの把握や課題の解決につながる」とは言えない。

(委員)

各センターにおいて地域ニーズの把握には努めてもらい、区役所等とも積極的に連携をしてもらいたい。

(委員)

各センター同士の連携についても強化し、距離があるセンター間の交流が生まれることで、課題解決にもつながっていくのではないかと。

(委員)

SDGsに関する取組に関しては、「パートナーシップを軸に」各分野の取組を実施してもらうことが重要であるので、その旨記載してもらいたい。

(2) 平成30年度市民活動総合センター評価報告案の検討について

事務局から「平成30年度市民活動総合センターの管理運営についての評価報告(案)」について概要を説明後、達成度及び内容の検討を行った。

【基礎評価】

事業内容

①情報収集

(委員)

HPのアクセス数については、減少傾向はみられるものの、当初のアクセス数が相当な数であったため、アクセス数が悪くなったといった印象はない。また、NPO法人数が減少している反面、一般社団法人や一般財団法人が増加しているという社会情勢もある中で、指定管理者であるきょうとNPOセンターからは数ではなく、中身、質も評価してほしいとの意見も以前にあった。

(委員)

新しいことに取り組んでも潜在的関心層を掘り起こすことが難しくなっていると感じている。今日まで市民活動総合センター(以下、しみセン)では、潜在的関心層を掘り起こすための取組を十分頑張ってきている。

利用者数が減少している原因としては、インターネット等を活用して情報が入手しやすくなったため、しみセンに来館しなくてもよくなった。併せて、いきいき市民活動センター(以下、いきセン)が13センターあることから、利用者が分散しているということも考えられるし、しみセンの利用者数が減少していることは問題とは考えていない。今後とも潜在的関心層を掘り起こすことを期待することは厳しいと感じている。

(委員)

新たに潜在的関心層を掘り起こす取組を進めることより、今の市民活動の支援を丁寧に行い、深めていくことが大切になってくるのではないかと考えている。

(委員)

今後は相談事業や育成事業に注力する方がいいのではないかと考えている。

(委員)

いきセンからしみセンに繋がったような事例はあるのか。

(事務局)

いきセンは施設ごとに指定管理者も違うため、しみセンとのつながりの強さについてはいきセンの活動内容等によって差があると考えている。

(委員)

しみセンの存在は多くの方が認知しており、しみセンからいきセンへの繋がりを強めれば、より良くなるのではないかと考えている。

(委員)

委員の皆さまの意見やこれまでの経過を踏まえ、情報収集の評価は「B」とする。

②相談事業

(委員)

インターネットが普及している中、年間3万件弱ほどの相談対応している。質・内容についても、初歩的なものから専門的なものまで幅広く対応していることは評価できる。相

談事業の評価については、「B」でいいのではないか。

③育成事業

(委員)

インターネット等である程度の情報は入手できる時代になってきているので、講座の枠組み自体を見直すこともいいのではないか。

(委員)

限られたリソースで、育成事業を幅広くやっている点は評価できる。

(委員)

インターネット等である程度の情報は入手できるため、今後はより相談対応が大切になり、潜在的関心層の掘り起こしのための一つのツールになっていくと考えられる。また、育成事業については、講座でなくてもいいのではないかと思うので、新たな取組を行うのであれば、しみセンの仕様書自体を見直す必要もでてくるのではないか。

(委員)

委員の皆さまの意見やこれまでの経過を踏まえ、育成事業の評価は「B」とする。

④交流・連携事業

(委員)

「祇園祭ごみゼロ大作戦」のボランティア・コーディネートの取組が、きょうとNPOセンターの事業なのか、指定管理者の事業なのか判断が難しい部分があったが、平成29年度から指定管理者の事業として評価していくことになった。

(委員)

「イ ボランティア・コーディネート」と「ウ いきいき市民活動センターをはじめとする様々な主体との交流・連携」を関連付けて、「祇園祭ごみゼロ大作戦」にいきセンにも参加してもらい、ボランティア・コーディネート等のノウハウを吸収することで、いきセンが行う地域のお祭りの参考にもできるのではないか。

(委員)

しみセンが外部に出て活動することによって、多くの方にしみセンのことを知ってもらうことができ。そのことがしみセンへの来館のきっかけにも繋がる。

(委員)

「祇園祭ごみゼロ大作戦」のボランティア・コーディネートについては、十分すぎるぐらい行っている反面、職員のワーク・ライフ・バランスは大丈夫かと思う。また、今後、いきセンとの連携をより期待するというので、交流・連携事業の評価は「B」とする。

サービスの向上

(委員)

評価するに当たって、目標を設定することが難しい項目である。

(委員)

情報コーナー及びライブラリースペースのレイアウトを変更して、新たな活用方法を創り出した工夫は、評価できると考えられる。

(委員)

については、サービスの向上の評価については、「B」とする。

執行体制，財務状況，施設管理

特になし。

【全体評価】

事業全般

(委員)

委員の皆さまの意見をまとめると市民活動の裾野を拓げることも大事であるが，今ある市民活動に対して，深く丁寧に対応することがより大事である。また「祇園祭ごみゼロ大作戦」のように，支援する人を育成することに注力していただきたい。

(3) 京都市いきいき市民活動センターの在り方検討に係る調査について

予定している各調査内容の詳細について事務局から説明を行った。

(委員)

評価委員会において出された意見を踏まえて，来週には調査を開始されるということですね。ヒアリングについては1センターにつきどれくらいの時間を想定されているのか。

(事務局)

資料に記載のヒアリング項目は，各センターに事前に提示した上でヒアリング当日に意見を聴く予定であるが，1センターあたり2時間以上はかかるのではないかと考えている。

(委員)

調査結果については秋頃にはまとまると思うので，調査結果を踏まえて在り方検討に関する議論を進めていきたい。

(4) その他(報告事項)

北いきいき市民活動センターが移転を予定している楽只小学校跡地の活用に係る計画について説明を行った。

(委員)

説明された内容で計画が進んでいるということは理解した。一度現地を見ることはできるのか。

(事務局)

来年度に改修工事を行う予定であり，現在は小学校として利用されていた当時のままの状態である。

以上